



2026年1月16日
コメンテーター会議

注目すべき
感染症情報

本日の話題

鳥インフルエンザ

届出基準等の一部改正

インフルエンザの基礎知識

CDC HP Types of Influenza Viruses

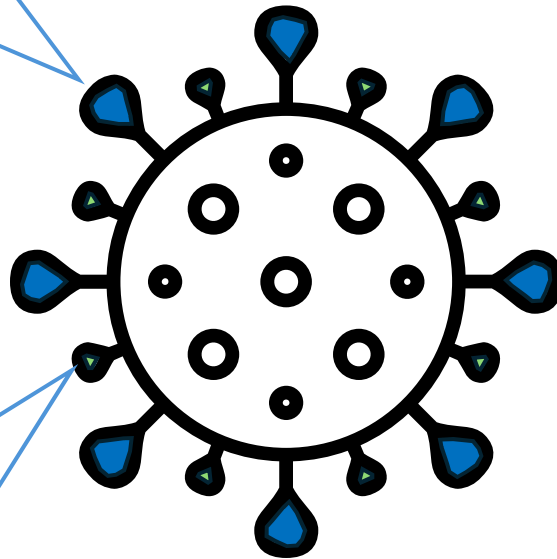
<https://www.cdc.gov/flu/about/viruses-types.html>

インフルエンザ診断マニュアル（国立健康危機管理機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/manual/010/influenza20230829.pdf>

赤血球凝集（HA）

ウイルスがヒト細胞に
吸着・侵入するために
必要な構造



ノイラミニダーゼ（NA）

ヒト細胞内で増殖した
ウイルスが細胞外へ
遊離するために必要な
構造

A型

HAに18種類、NAに11種類、
の亜型が存在する

B型

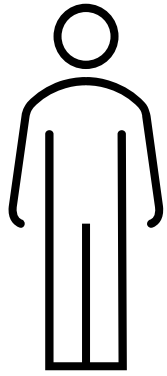
NA、HAともに1種類
Yamagata系統とVictoria系統
に分けられる

（C型、D型）

インフルエンザウイルス

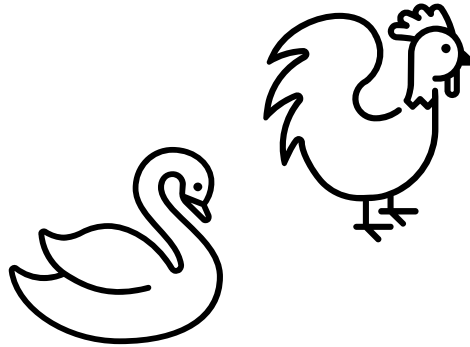
動物とインフルエンザ

✓ インフルエンザAは様々な動物で感染を引き起こす



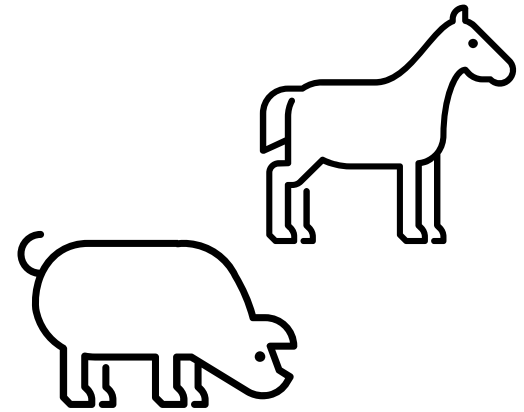
ヒト

- A(H1N1)pdm09
- A(H3N2)
- (• B/Yamagata)
- (• B/Victoria)



鳥

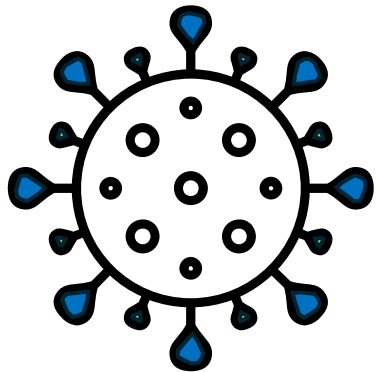
- A(H5N1)
- A(H7N9)
- その他多数



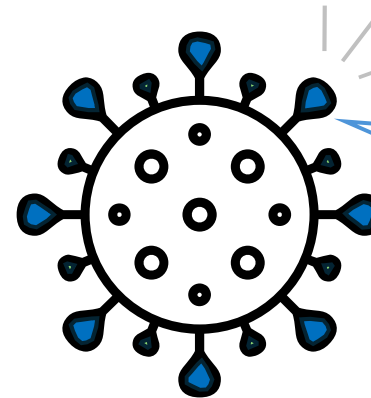
その他の動物

抗原連続変異と抗原不連続変異

抗原連続変異 (antigenic drift)

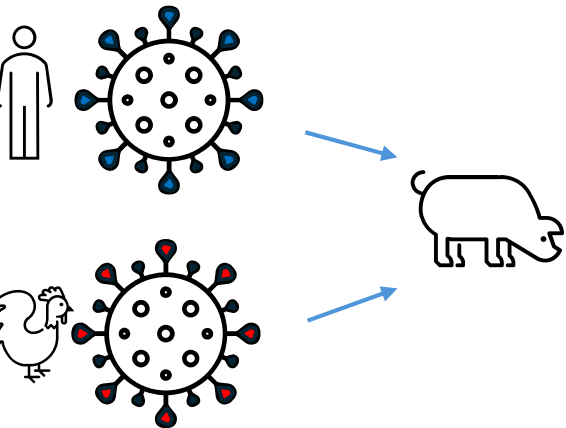


ウイルス遺伝子の
小さな変化が蓄積

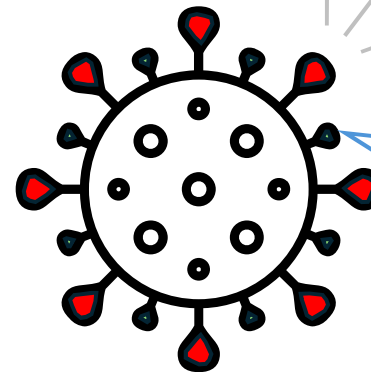


抗原性が変化
→季節性インフルエンザの
流行

抗原不連続変異 (antigenic shift)



2つのウイルスが
宿主に同時感染し、
遺伝子再集合



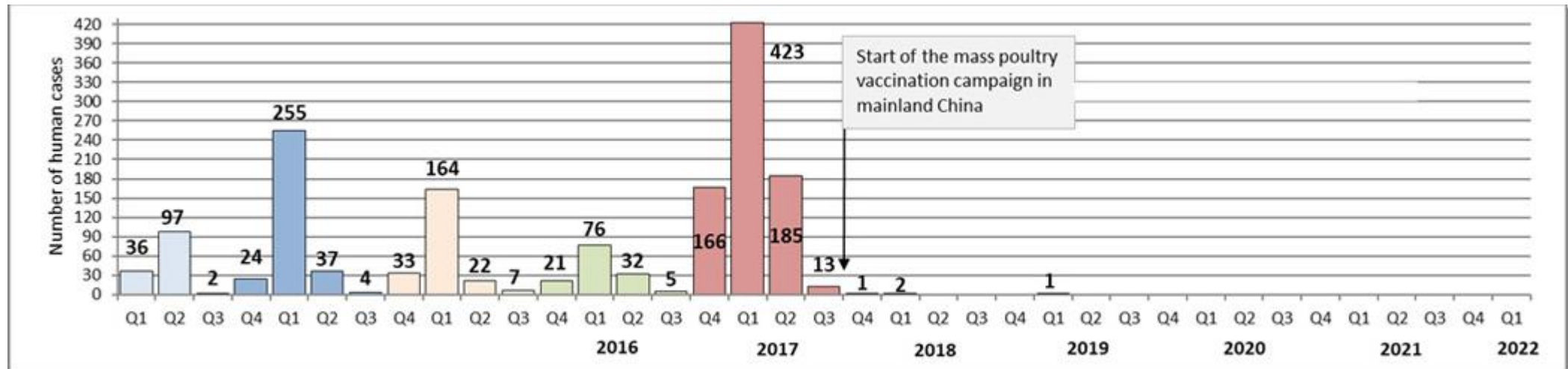
異なる亜型の誕生
→ヒトへの感染性を獲得
すると**新型インフルエンザ**
として大流行の可能性

インフルエンザパンデミックの歴史

1930s ウイルスの 分離に成功	●	1918	A(H1N1) スペイン風邪	鳥インフルエンザウイルスが豚を介してヒトへ感染したと考えられている。約5000万人が死亡。
1940s ワクチンが 開発される	●	1957	A(H2N2) アジア風邪	鳥インフルエンザウイルスに起源をもつウイルスが大流行。約110万人が死亡。
1966 マントザ がFDAに より承認	●	1968	A(H3N2) 香港風邪	鳥インフルエンザウイルスに起源をもつウイルスが大流行。約100万人が死亡。
1999 ミフル、 レンザが FDAにより 承認	●	1997	鳥インフルエンザA(H5N1)の ヒトへの感染	香港で生鳥市場を介したヒト感染症例が初めて報告される。
	●	2009	H1N1pdm09	ヒト・鳥・豚のインフルエンザウイルスで遺伝子再集合が生じ、今までと異なるH1N1ウイルスが大流行。約10～39万人が死亡。
	●	2013	鳥インフルエンザA(H7N9)の ヒトへの感染	中国で初めてのヒト感染症例が報告される。

鳥インフルエンザA(H7N9)の世界的状況

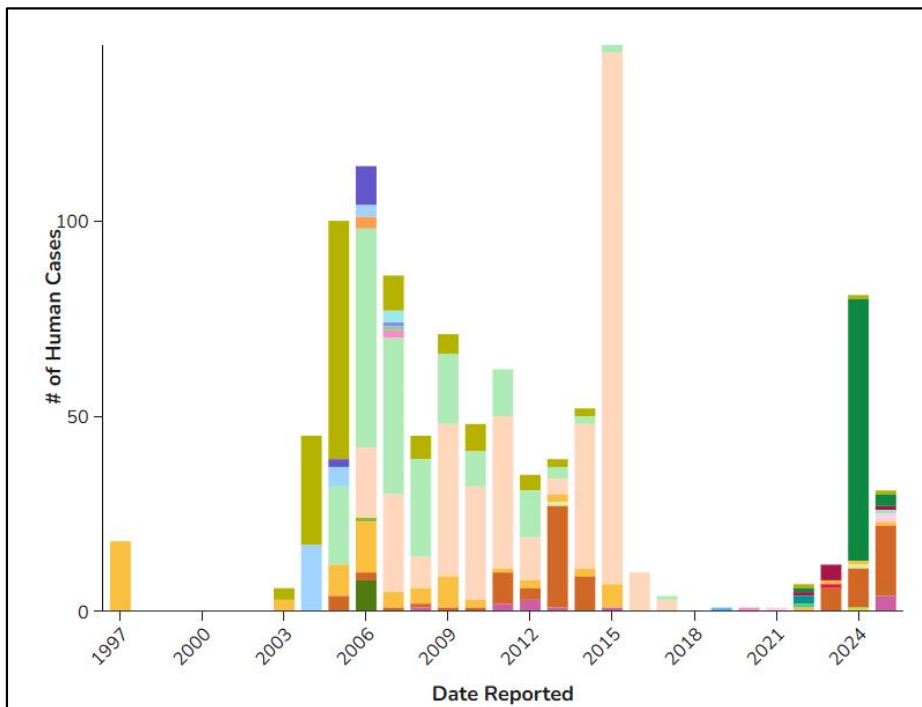
2013年2月から2022年2月2日までのH7N9の人への感染事例



- ✓ 2013年に中国から最初の患者が報告された
- ✓ 2022年6月1日までに計1568例が報告され、616例（39%）が死亡している
- ✓ 中国本土からの報告例、中国への渡航歴または中国から輸入された家きんとの接触歴のある報告例が含まれる
- ✓ 2017年の第5波までにヒト-ヒト感染は確認されているものの、3次感染例は確認されていない
- ✓ FAO HPによれば2019年3月以降、ヒト症例は報告されていない

鳥インフルエンザA(H5N1)の世界的状況

1997年から2025年（11月時点）にWHOに報告された インフルエンザA（H5N1）のヒト症例



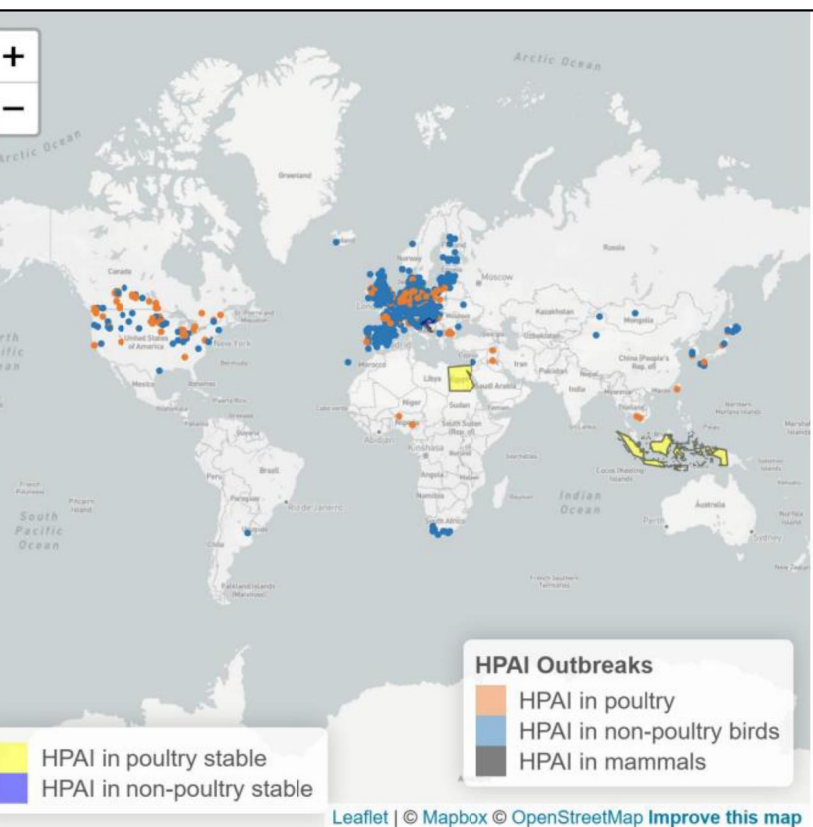
Cumulative number of confirmed human cases for avian influenza A(H5N1) reported to WHO, 2003-2025, 19 December 2025
https://cdn.who.int/media/docs/default-source/influenza/h5n1-human-case-cumulative-table/2025_table_h5n1_dec.pdf?sfvrsn=bee0f796_7&download=true
国立健康危機管理機構感染症情報提供サイト高病原性鳥インフルエンザウイルスA（H5N1）感染事例に関するリスクアセスメントと対応
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/avian-influenza/030/index.html>
Influenza at the human-animal interface
Summary and risk assessment, from 6 November to 19 December 2025
https://cdn.who.int/media/docs/default-source/influenza/human-animal-interface-risk-assessments/influenza-at-the-human-animal-interface-summary-and-assessment--from-6-november-to-19-december-2025.pdf?sfvrsn=d3c81485_3&download=true
Global Human Cases with Influenza A(H5N1), 1997-2025
<https://www.cdc.gov/bird-flu/php/surveillance/chart-epi-curve-ah5n1.html>
Signs and Symptoms of Bird Flu in People
<https://www.cdc.gov/bird-flu/signs-symptoms/index.html>

- ✓ 1997年に香港で生鳥市場を介したヒトへの感染例が初めて報告された
- ✓ 2003年、2004年には東アジア、東南アジアの国々でもヒト感染例が確認された
- ✓ 2003年から2025年12月19日までに、感染例993例が報告され、うち477例（48%）が死亡している
- ✓ ヒト感染例のほとんどが感染した鳥や汚染された環境との接触と関連がある
- ✓ 2007年以降、明らかなヒト-ヒト感染は報告されていない
- ✓ CDCのインフルエンザA（H5）ウイルスの疾患情報ページには、「目の赤みは、最近のアメリカでの鳥インフルエンザA(H5)ウイルス感染症例で主な症状となっています」と記載されている

鳥インフルエンザの動物での流行状況

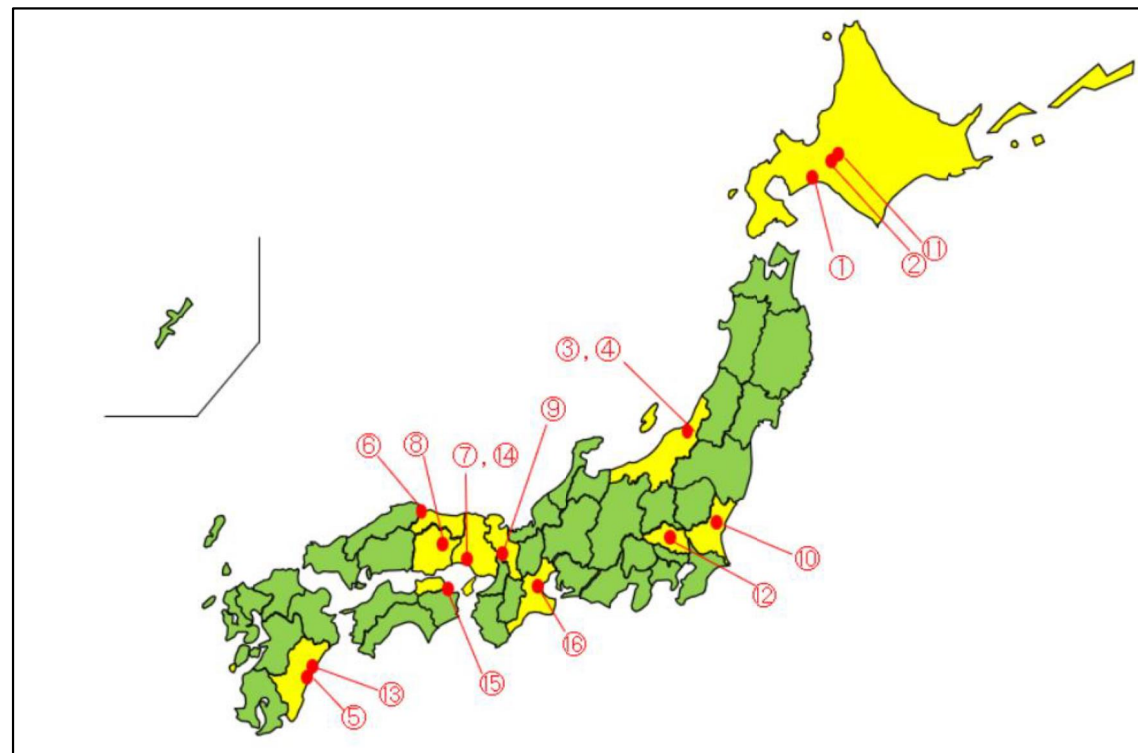
2025年10月～2026年11月シーズンにおける 高病原性鳥インフルエンザの動物での流行状況（2025年11月時点）

「高病原性鳥インフルエンザ」とは鶏に感染させた場合に、高率に死亡させてしまうインフルエンザのことをいう。WOAHによる基準により分類される。



2025年10月からのシーズンで、11月までに家きんでは267件、家きん以外の鳥や哺乳類では660件の高病原性鳥インフルエンザのアウトブレイクが報告された

2025年10月以降に日本で高病原性鳥インフルエンザの防疫措置が行われた事例（16事例）（2025年1月14日時点）



- ✓ 2025年10月からのシーズンで、1月14日までに家きんに対して16事例の防疫措置が行われている（いずれもA(H5))
- ✓ 12/25に茨城県城里町、12/30に埼玉県嵐山町でH5N1に感染している家きんが特定され、防疫措置が行われた

鳥インフルエンザの届出基準等の一部改正

鳥インフルエンザの届出基準等の一部改正の概要

2類感染症	H5N1	「（2）臨床的特徴」に結膜炎についての記載が追加 「（3）届出基準」の医師の診察に関する記載が変更 「検査材料」に鼻咽頭拭い液、結膜拭い液が追加
	H7N9	「（3）届出基準」の医師の診察に関する記載が変更 「検査材料」に鼻咽頭拭い液が追加
4類感染症	上記以外	「検査材料」に鼻咽頭拭い液、結膜拭い液が追加

2025年1月13日付で、厚生労働省より急性灰白髄炎、鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9、その他）、回帰熱、ヘンドラウイルス感染症について、届出基準等の一部改正に関する通知が行われた

感感発0113第1号 令和8年1月13日 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について（一部改正）」

診断のための検査材料が一部追加されたほか、「医師の診察」に関する記載が一部変更されている

- （前）

症状のある者を診察した結果、症状や所見から鳥インフルエンザが疑われ、かつ～の検査方法により診断した場合
- （後）

症状のあるものを診察し又は症状や所見から鳥インフルエンザを疑い、かつ～の検査方法により診断した場合